

2020. **12**
No. **207**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第64回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	今冬の買物計画		5
3	おけいこ事、塾・サークル		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		9
6	冬季ボーナス		10
7	お歳暮		11
8	冬休み、年末・年始の過ごし方		13



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が9.1%、「悪くなった」が23.0%、「変わらない」が67.9%。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△13.9。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で県内景気は停滞局面にあり、雇用・所得環境も厳しさは増大。また、同感染症の収束が見通せないなか、景気の先行き不透明感も強まっていることから、県内勤労者の生活実感も悪化していると考えられる。
- 家計上の悩みは、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」の順。

2. 今冬の買物計画

- この冬購入したい商品は、「婦人服」、「紳士服」、「スマートフォン」、「暖房機器」、「子供服」の順。
- 昨冬比で購入予定比率が上昇した品目は3品目に止まり、上昇幅も小幅。一方で17品目が低下しており、消費マインドが弱含んでいる様子が窺われる。
- 購入予定先は「インターネット通販」、「一般小売店」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「ホームセンター」。「インターネット通販」は初の1位。

3. おけいこ事、塾・サークル

- 参加したいおけいこ事や塾・サークルは、「料理」が1位で、以下、「ガーデニング」、「パソコン」、「外国語会話」、「ダンス・フィットネス等」の順。
- 年代別では、各年代ともに「料理」が1位（50代以上は「ガーデニング」も同率1位）。2位は20代で「ダンス・フィットネス等」、30代で「手芸・編物・着付」、40代で「ガーデニング」が人気。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は505万円で、現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」、「投資信託」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は28.4%で、平均借入額は988万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」の順。

6. 冬季ボーナス

- 冬季ボーナスは、すべての年代で「減りそう」が「増えそう」を上回った。新型コロナウイルス感染症に伴い県内経済が停滞し、感染症の収束時期も見通せないなか、勤労者がボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。
- 平均手取り額（予想含む）は36万9千円であった。使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」の順。

7. お 歳 暮

- お歳暮を贈る予定者は、全体の35.1%。贈る件数は「2件以下」が最も多く、平均件数は2.7件。
- 1件あたりの単価は、「3,000円程度」が最多。平均単価は3,684円。
- 贈りたい商品は「ビール」（含むビール券）が最多で、以下、「お菓子」、「調味料」、「直送生鮮品」（同順位）の順。

8. 冬休み、年末・年始の過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「帰郷」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。
- 冬休み、年末・年始の過ごし方について、62.1%が「予定なし」。そのうち42.5%は新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答。

(特別調査) 新型コロナウイルス関連

新型コロナウイルス感染症関連として、「半年前と比較した収支の増減」(p4)、「政府の支援策の利用状況」(p14)等の調査を実施。

- 半年前との支出額の比較について、増加の割合が高かった項目は「日用雑貨費」、「自宅内での食費」、「テイクアウト費」など。減少の割合が高かった項目は、「旅行・交通費」、「外食費」、「交際費」など。そのほか、貯蓄を取り崩す傾向もみられ、家計繰り回しの厳しさが窺われる。
- 特別定額給付金の使途は「生活費の補てん」、「貯蓄」、「家電品の購入」の順。Go To トラベル・Go To イートとも利用意向は全体の3割強。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 504 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2020 年 11 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	85人	16.9%
	30 代	105	20.8
	40 代	154	30.6
	50 代 以 上	160	31.7
家 族	既 婚	200	39.7
	未 婚	304	60.3
性 別	男 性	333	66.1
	女 性	171	33.9
合 計		504	100.0

(参考) 前回 (2019 年冬季) 内訳

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	239人	22.7%
	30 代	263	25.0
	40 代	248	23.5
	50 代 以 上	303	28.7
家 族	既 婚	670	63.6
	未 婚	382	36.2
性 別	男 性	469	44.5
	女 性	584	55.4
合 計		1,054	100.0

◎過去調査との比較について

新型コロナウイルス感染症の影響により、調査方法を当行営業店を通じた調査票の配付・回収による調査から、民間調査会社による Web アンケートに変更しました。

このため、調査結果が不連続となっており、過去調査との比較は参考値となります。

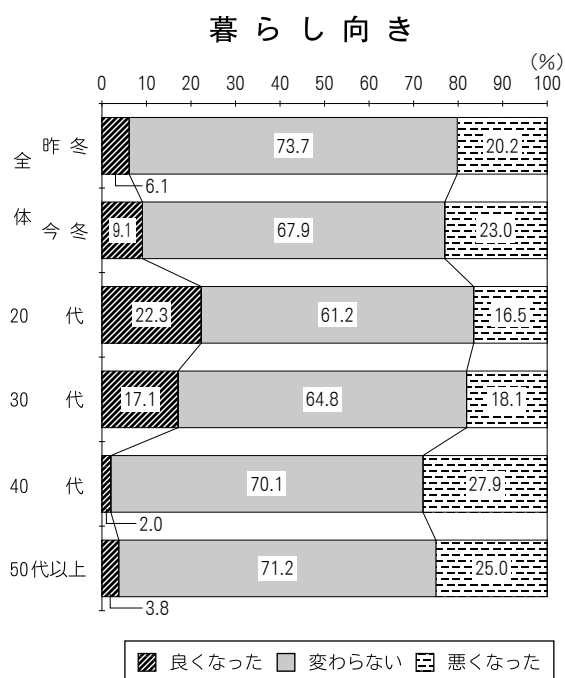
1 家計の状況

暮らし向きは悪化が続く

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が9.1%、「悪くなった」が23.0%、「変わらない」が67.9%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△13.9となった。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で県内景気は停滞局面にあり、雇用・所得環境も厳しさを増している。また、同感染症の収束が見通せないなか、景気の先行き不透明感も強まっていることから、県内勤労者の生活実感も悪化していると考えられる。

年代別にみると、「悪くなった」の回答比率が最も高かったのは40代（27.9%）で、以下、50代以上（25.0%）、30代（18.1%）、20代（16.5%）と続いた。若年層と比べて生活費負担の重い中高年層で、生活実感の厳しさをより強く感じている状況が窺われる。

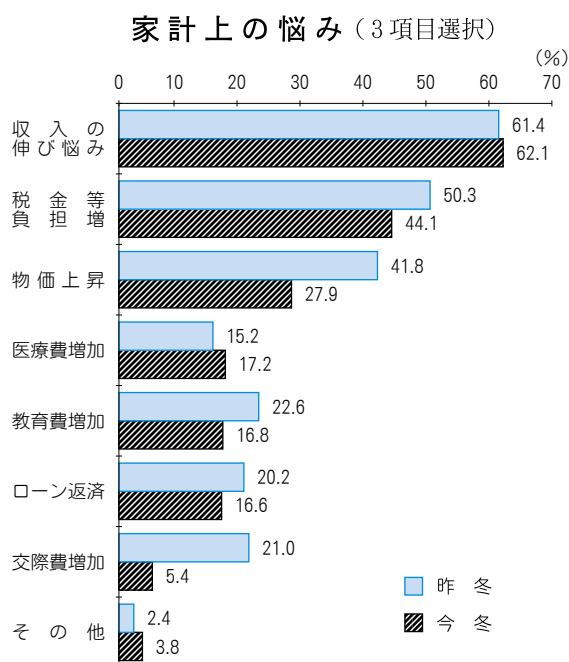


家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み（3項目選択）は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」と続いた。

参考までに上位項目を昨冬と比較すると、「収入の伸び悩み」の回答比率が61.4%から62.1%へとわずかながら上昇した一方、「税金等負担増」および「物価上昇」は、各々6.2ポイント、13.9ポイント低下した。昨冬は消費税増税と、それに伴う物価の上昇が家計に負担感をもたらしていたが、その影響が和らいだ様子が窺われる。

その他の項目をみると、「交際費増加」が15.6ポイントの大幅な低下となった。新型コロナウイルス感染症の影響で、不要不急の外出や会食を控える動きが続いていると考えられる。



(特別調査)

新型コロナウイルス感染症の家計への影響

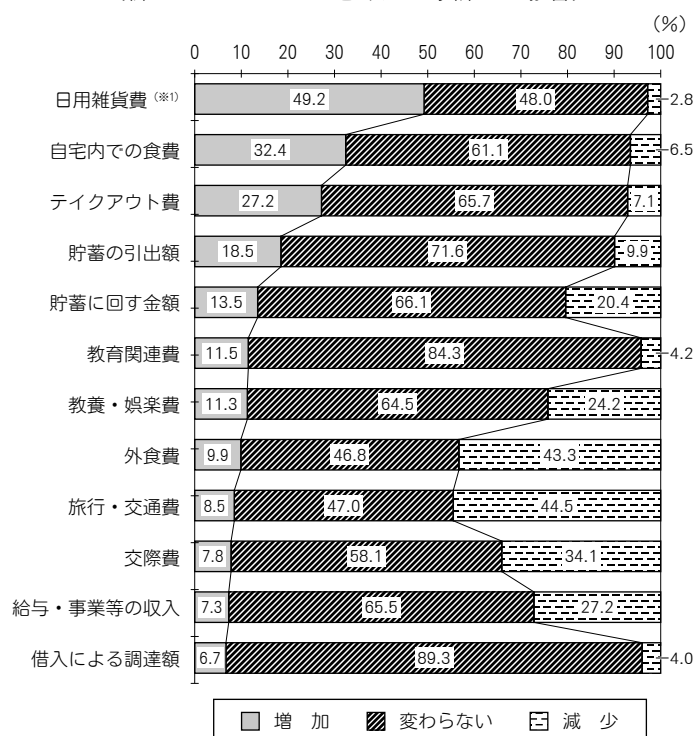
2020年夏の調査に引き続き、新型コロナウイルス感染症が家計に与える影響を継続把握するために、半年前（おおむね緊急事態宣言発出期間中）と比べて家計の収入・支出項目がどう変化したかを伺った。

増加（「とても増えた」・「やや増えた」の合計）の割合が多かった項目は、「日用雑貨費（マスク・消毒液などの衛生費を含む）」、「自宅内での食費」、「テイクアウト費」などであり、外出を控え、自宅内で過ごす時間が伸びている様子を反映して「巣ごもり消費」や、「感染防

止対策」への出費が増加していることが窺われる。一方、減少（「やや減った」・「とても減った」）割合が多かった項目は「旅行・交通費」、「外食費」、「交際費」などであり、感染防止と経済活動の両立に向けた政策対応が進むなかでも、家計においては引き続き外出を伴う不要不急の消費を抑える動きが窺われる。

また、貯蓄に回す金額と貯蓄の引出額について、増加と減少の割合の差をみると、貯蓄に回す金額は「減少」のほうが上回っているのに対し、引出額は「増加」のほうが上回っている。景気の停滞感が漂うなかで、家計の繰り回しも厳しさを増す様子が窺われる。

家計項目の半年前との増減比較
(新型コロナウイルス感染症の家計への影響)



(※1) マスク・消毒液などの衛生費を含む

2 今冬の買物計画

今冬の消費マインドは弱含み

この冬購入したい商品（20品目について複数回答）は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「スマートフォン」、「暖房機器」、「子供服」と続いた。

参考までに昨冬と比べて購入予定比率が上昇した品目をみると、「ブルーレイ（含むHDD、DVDレコーダー）」「4K・8Kテレビ」、「ウェアラブル端末」の3品目（昨冬5品目）に止まったほか、上昇幅はいずれも2ポイント未満と、消費マインドが弱含んでいる様子が窺われる。

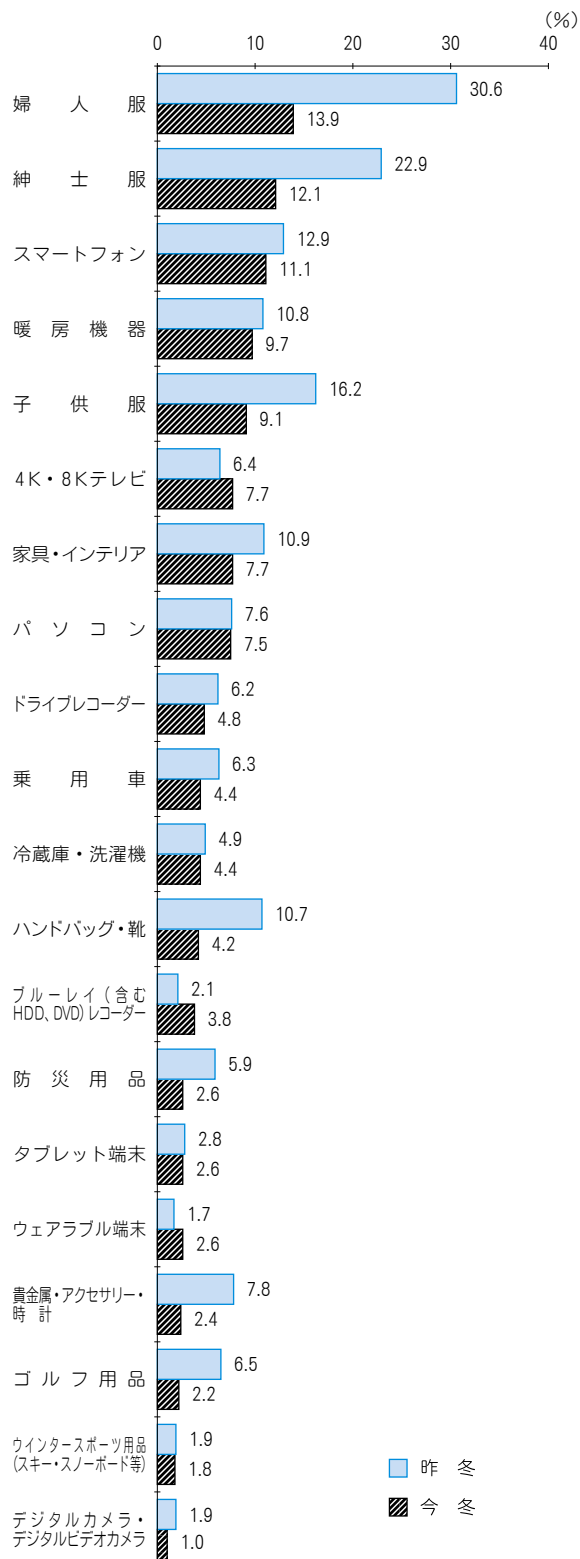
衣料品や嗜好品、高額品の購入予定が低下

購入予定比率が低下した品目は、「婦人服」、「紳士服」、「スマートフォン」、「暖房機器」、「子供服」、「家具・インテリア」、「パソコン」、「ドライブレコーダー」、「乗用車」などの17品目（昨冬13品目）となった。このうち「婦人服」、「紳士服」、「子供服」といった衣料品や「ハンドバッグ・靴」、「貴金属・アクセサリー・時計」、「ゴルフ用品」などの嗜好品や高額品で比較的大きめの下落幅となった。新型コロナウイルス感染症の影響により県内景気が停滞するなか、先行きの不透明感も高まっていることから、不要不急の消費を控える様子が窺われる。

今冬購入予定の商品ベスト5

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代 以 上
1位	婦人服	婦人服	子供服	スマートフォン	紳士服
2位	紳士服	家具・インテリア	暖房機器	婦人服、紳士服 (同順位)	スマートフォン
3位	スマートフォン	スマートフォン、子供服 (同順位)	婦人服	4K・8Kテレビ	4K・8Kテレビ
4位	暖房機器		4K・8Kテレビ	暖房機器、子供服、パソコン (同順位)	婦人服、ドライブレコーダー (同順位)
5位	子供服	4K・8Kテレビ、冷蔵庫・洗濯機 (同順位)	紳士服、スマートフォン ほか4品目		

主要商品の購入予定状況（複数回答）

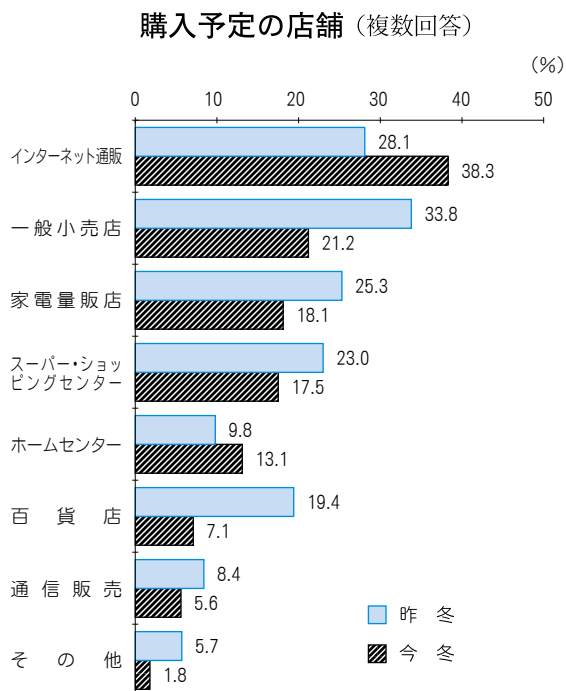


3 おけいこ事、塾・サークル

購入予定先はインターネットが初の1位

この冬購入したい商品の購入予定先（複数回答）は、「インターネット通販」が最も多く、以下、「一般小売店」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「ホームセンター」と続いた。

「インターネット通販」の比率は38.3%で、2位の一般小売店（21.2%）を17.1ポイント上回り、初めて1位となった。今回のアンケートはWebによる調査であり、普段からパソコンやスマートフォンを使い慣れている方の回答が多かったことや、新型コロナウイルス感染症の影響で外出を控える動きが広がったことが要因と考えられる。



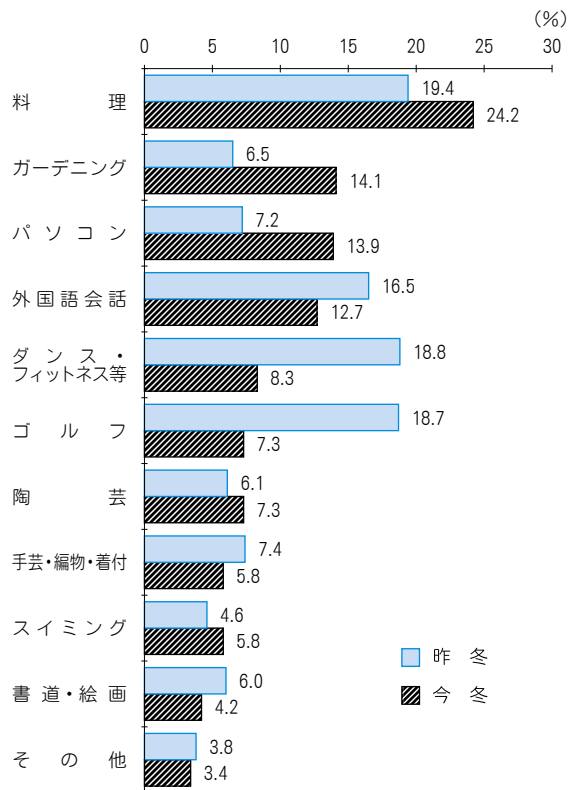
巣ごもり関連の人气が上昇

参加したいおけいこ事や塾・サークル（複数回答）は、「料理」が1位となり、以下、「ガーデニング」、「パソコン」、「外国語会話」、「ダンス・フィットネス等」の順となった。参考までに昨冬と比較すると、「ガーデニング」が7位から2位へ、「パソコン」が6位から3位へと順位を上げた一方、「ダンス・フィットネス等」が2位から5位に、「ゴルフ」が3位から6位に後退した。また、「陶芸」（8位→6位）、「スイミング」（10位→8位）がそれぞれ順位を上げた一方、「手芸・編物・着付」（5位→8位）、「書道・絵画」（9位→10位）は順位を下げた。

また、「ガーデニング」、「パソコン」、「料理」の回答比率が各々7.6、6.7、4.8ポイント上昇した一方、「ゴルフ」、「ダンス・フィットネス等」は各々11.4、10.5ポイントと大幅に低下した。新型コロナウイルス感染症の影響で、「スポーツ」から「巣ごもり」へと人気シフトしている様子が窺われる。

年代別に人気の高い項目をみると、各年代ともに「料理」が1位（50代以上は「ガーデニング」も同率1位）で、2位は20代が「ダンス・フィットネス等」、30代は「手芸・編物・着付」、40代は「ガーデニング」となっている。

やってみたいおけいこ事、塾・サークル (複数回答)



やってみたいおけいこ事、塾・サークル (複数回答)

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代以上
料 理	24.2	41.2	27.6	19.5	17.5
ガーデニング	14.1	9.4	9.5	16.2	17.5
パ ソ コ ン	13.9	7.1	12.4	15.6	16.9
外国語会話	12.7	12.9	13.3	13.6	11.3
ダンス・フィットネス等	8.3	22.4	10.5	6.5	1.3
ゴ ル フ	7.3	4.7	10.5	4.5	9.4
陶 芸	7.3	7.1	13.3	3.9	6.9
手芸・編物・着付	5.8	8.2	14.3	1.9	2.5
スイミング	5.8	3.5	5.7	7.1	5.6
書道・絵画	4.2	4.7	5.7	2.6	4.4
そ の 他	3.4	1.2	0.0	6.5	3.8

4 貯 蓄

平均貯蓄額は505万円

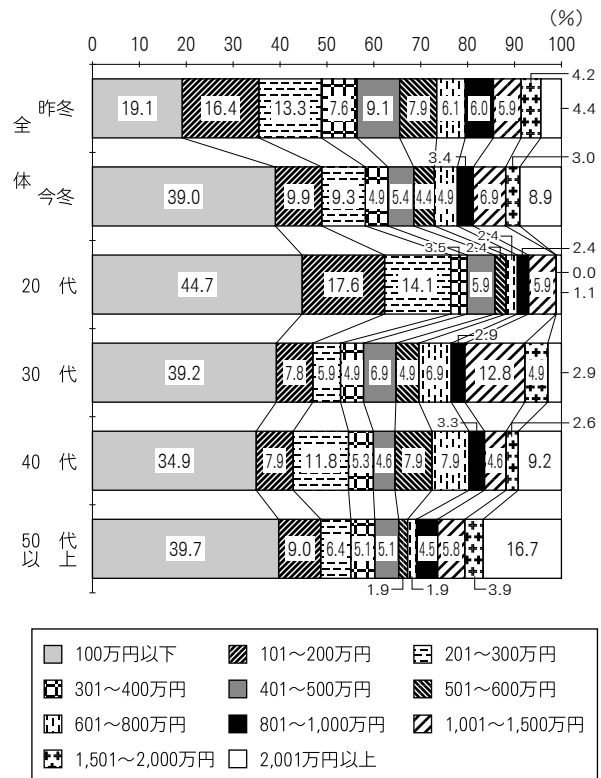
現在の貯蓄額の平均額は505万円であった。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「2,001万円以上」、「1,001万円～1,500万円」、「401万円～500万円」、「301万円～400万円」・「601万円～800万円」(同順位)の順となった。

利用している金融商品(複数回答)は、「銀行預金」が83.7%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」、「株式」、「投資信託」の順となった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は40代以上で8割超となっている。また、「株式」、「投資信託」、「生命保険」は年代が高くなるに連れて利用率が上昇している。

現在の貯蓄額



今後増やしたい金融商品は銀行預金が最多

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が最多で、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」、「投資信託」、「個人年金」の順となった。

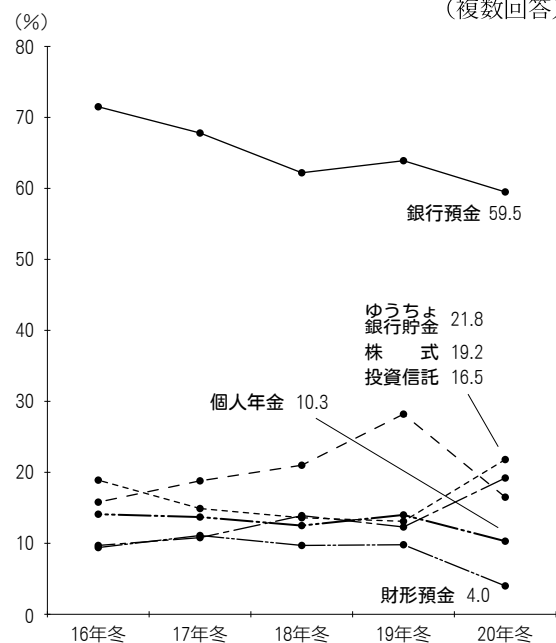
年代別にみると、すべての年代で1位が「銀行預金」となっているものの、以降は各年代でばらつきがみられる。2位について、20代では「個人年金」、30代では「ゆうちょ銀行貯金」、40代以上では「株式」となっている。

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がりが期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となった。

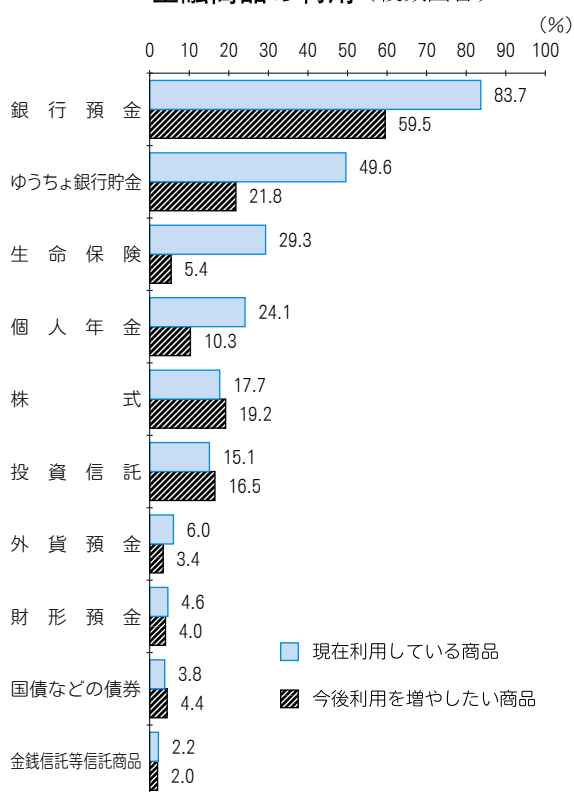
年代別にみると、20代で「預け入れ引き出しが自由」、30代以上で「元金の保証があり安心」が1位となっており、2位はすべての年代で「利回りが良い」となっている。

今後利用を増やしたい金融商品の推移

（複数回答）



金融商品の利用（複数回答）



貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）

（%）

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨冬順位
元金の保証があり安心	53.8	31.8	48.6	60.4	62.5	1
利回りが良い	44.0	43.5	39.0	43.5	48.1	2
預け入れ引き出しが自由	42.5	48.2	34.3	43.5	43.8	3
値上がりが期待できる	24.8	30.6	25.7	20.1	25.6	4
利用金融機関が自宅から近い	12.7	16.5	14.3	11.7	10.6	5
利用金融機関のサービスが良い	8.5	7.1	11.4	7.1	8.8	6
利用金融機関に友人、知人がいる	3.2	4.7	3.8	3.2	1.9	9
利用金融機関が勤務先から近い	2.8	7.1	3.8	1.9	0.6	8
勤務先が利用金融機関と取引している	1.8	2.4	5.7	0.6	0.0	7
利用金融機関が集金にきてくれる	1.0	0.0	1.0	1.3	1.3	10
その他	0.4	0.0	0.0	1.3	0.0	—

5 ローン等の利用

平均借入額は988万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は28.4%で、平均借入額は988万円となった。

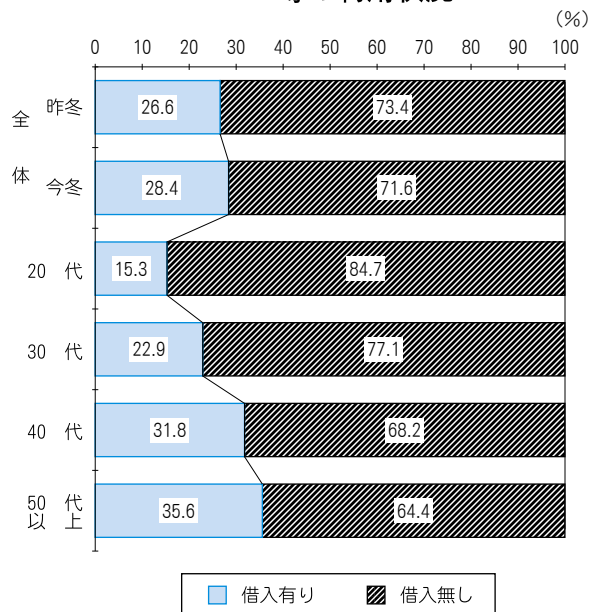
利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」と続いた。参考までに昨冬と比較すると、利用目的では、「教育資金以外の生活資金」の比率が上昇した以外は、「財テク資金」を除くすべての項目で低下した。

一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」、「銀行以外の金融機関」の順となった。参考までに昨冬と比較すると、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」、「勤務先」の比率が上昇した反面、「銀行」、「銀行以外の金融機関」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は年代が上がるほど高くなっており、平均借入額は、20代が316万円、30代が1,939万円、40代が1,064万円、50代以上が674万円となった。

また、利用目的は、20代で「土地・住宅の購入」・「教育資金」（同順位）、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。なお、借入先は、すべての年代で「銀行」が1位、「月賦・クレジット会社」が2位となっている。

ローン等の利用状況



ローン等の借入先・利用目的

（複数回答）

(%)

		全 体	20 代	30 代	40 代	50 代以上
利 用 目 的	土 地 ・ 住 宅 の 購 入	58.0	23.1	58.3	67.3	57.9
	自動車・家電品の購入	18.2	15.4	16.7	20.4	17.5
	教 育 資 金 以 外 の 生 活 資 金	11.2	15.4	8.3	14.3	8.8
	教 育 資 金	8.4	23.1	12.5	2.0	8.8
	旅行・レジャー資金	4.9	0.0	8.3	8.2	1.8
	財 テ ク 資 金	1.4	0.0	0.0	0.0	3.5
	そ の 他	7.7	23.1	8.3	0.0	10.5
借 入 先	銀 行	60.8	38.5	62.5	63.3	63.2
	月賦・クレジット会社	24.5	23.1	20.8	24.5	26.3
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	11.9	0.0	12.5	12.2	14.0
	銀行以外の金融機関	11.2	15.4	8.3	12.2	10.5
	勤 務 先	4.2	0.0	4.2	2.0	7.0
	そ の 他	4.9	23.1	8.3	2.0	1.8

6 冬季ボーナス

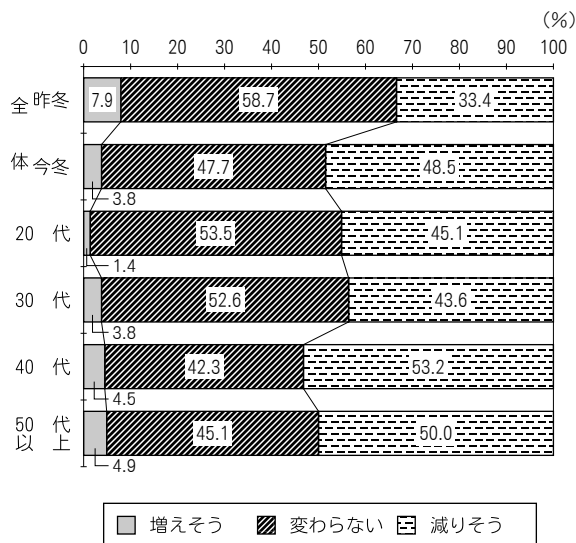
手取り額は減額が増額を上回る

昨冬と比べた今冬のボーナス（手取り額・含予想）は、「増えそう」が3.8%、「減りそう」が48.5%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△44.7で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う需要減退の影響などで県内景気が停滞するなか、同感染症の収束時期も見通せないことから、今冬のボーナス支給について厳しい見方をしている様子が窺われる。

なお、年代別にみると、すべての年代で「減りそう」が「増えそう」を上回った。

冬季ボーナス増減予想

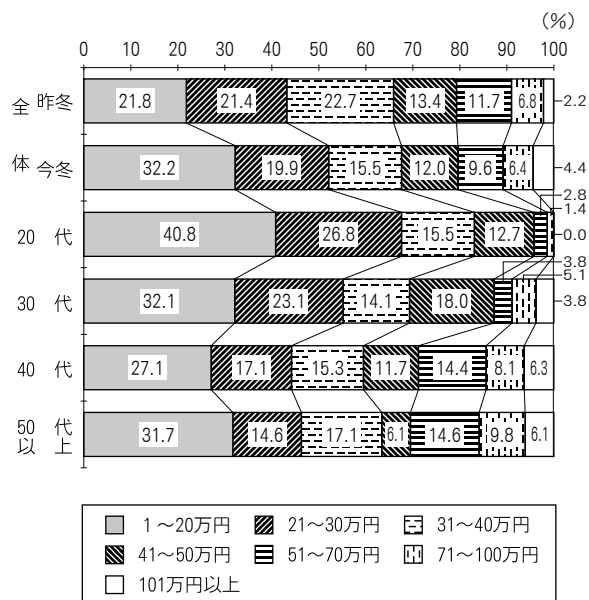


平均手取り額は36万9千円

手取り額（予想を含む）は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

また、平均手取り額は36万9千円となった。年代別にみると、20代が26万8千円、30代が34万7千円、40代が41万8千円、50代以上が41万2千円となっている。

ボーナス手取り予想額



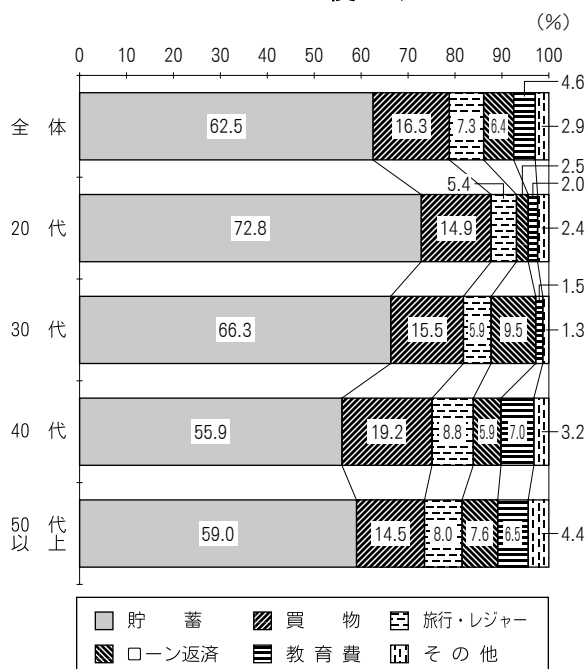
「貯蓄」の配分割合が6割超を占める

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」、「教育費」の順となった。

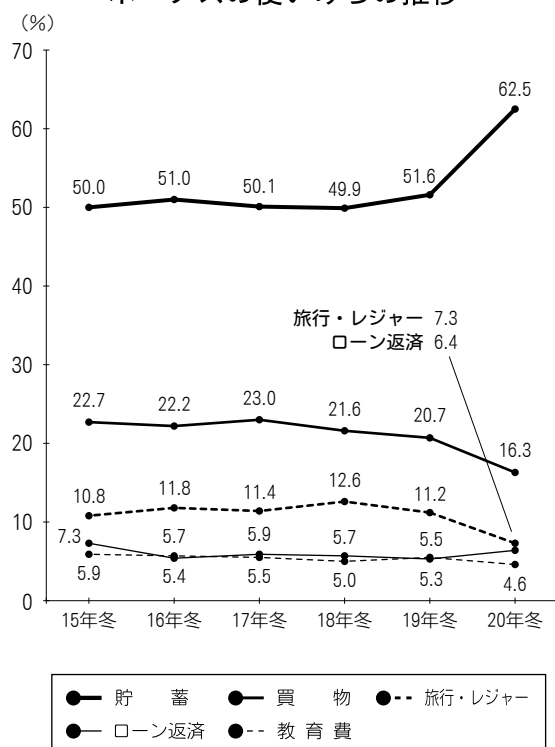
参考までに昨冬と比較すると、「貯蓄」、「ローン返済」の比率が上昇した一方、「買物」、「旅行・レジャー」、「教育費」は低下した。調査方法、調査対象が異なるため、単純な比較はできないが、新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないなか、貯蓄で将来の不測の支出に備えるとともに、依然として不要不急の買物を控える動きが続いているものと考えられる。

なお、年代別にみると、すべての年代で1位は「貯蓄」、2位は「買物」となった。3位は30代で「ローン返済」となった以外は、「旅行・レジャー」となった。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お歳暮

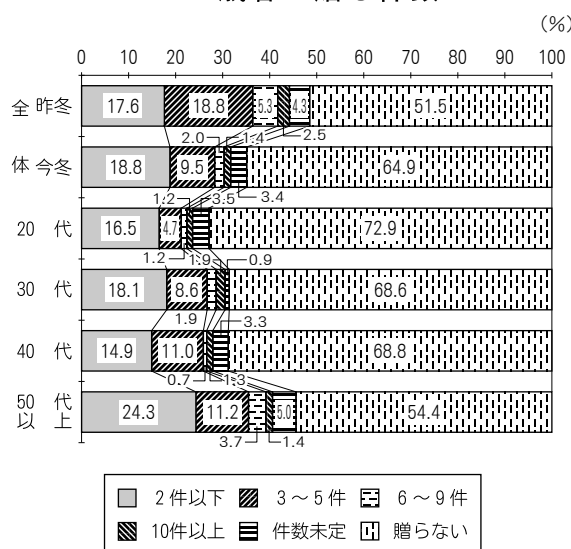
贈る件数は平均 2.7 件

今冬、お歳暮を贈る予定のある人は 35.1% となった。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「件数未定」、「6～9 件」、「10 件以上」の順で、平均件数は 2.7 件となった。

年代別にみると、贈る予定のある人は、20 代が 27.1%、30 代が 31.4%、40 代が 31.2%、50 代以上が 45.6% となっており、平均件数は、20 代が 2.4 件、30 代が 2.6 件、40 代が 2.8 件、50 代以上が 2.7 件となった。

お歳暮を贈る件数



平均単価は 3,684 円、平均予算は 10,546 円

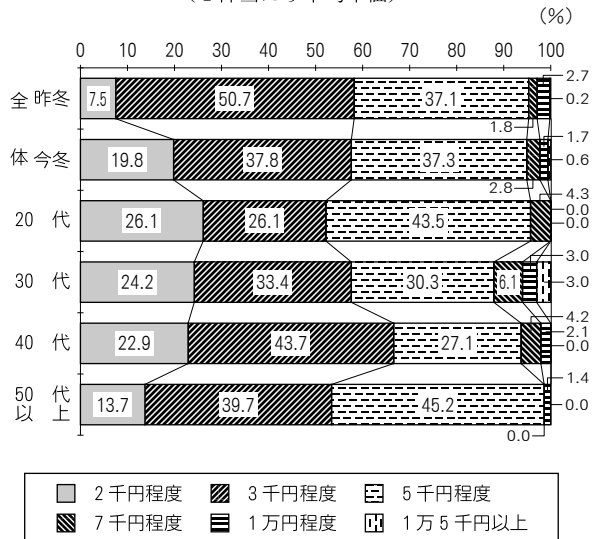
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 37.8% と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 37.3% となっており、この両者で全体の 4 分の 3 を占めた。

また、平均単価は 3,684 円、平均予算総額は 10,546 円となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,525 円、30 代が 3,600 円、40 代が 3,465 円、50 代以上が 3,915 円となっており、平均予算総額は、各々 8,850 円、10,075 円、10,198 円、11,515 円となった。

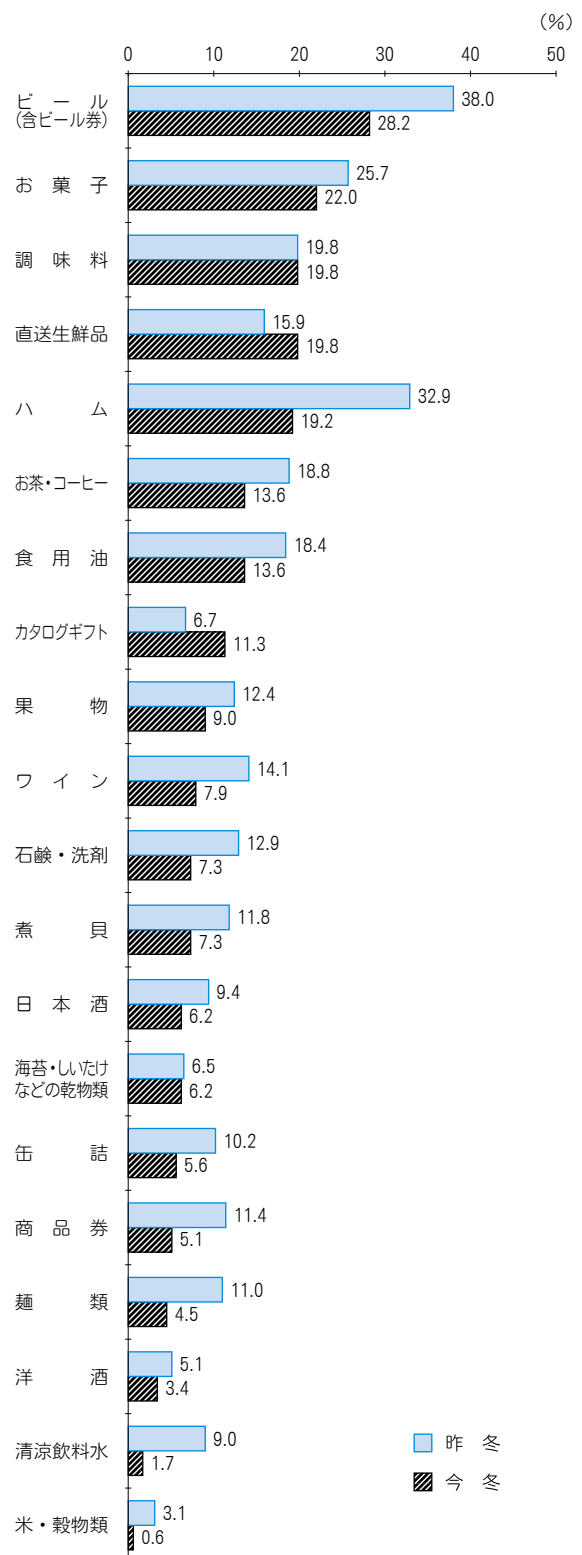
お歳暮の相場

(1件当たり平均単価)



お歳暮に贈りたいもの

(5品目まで選択)



引き続き「ビール」がトップ

お歳暮に贈りたい商品(5品目まで選択)は、「ビール」(含むビール券、以下同じ)が最多で、以下、「お菓子」、「調味料」・「直送生鮮品」(同順位)、「ハム」の順となった。

年代別にみると、1位は20代で「お菓子」、30代以上で「ビール」であった。また、2位は20代で「調味料」、30代で「調味料」・「食用油」(同順位)、40代で「直送生鮮品」、50代以上では「お菓子」となっている。

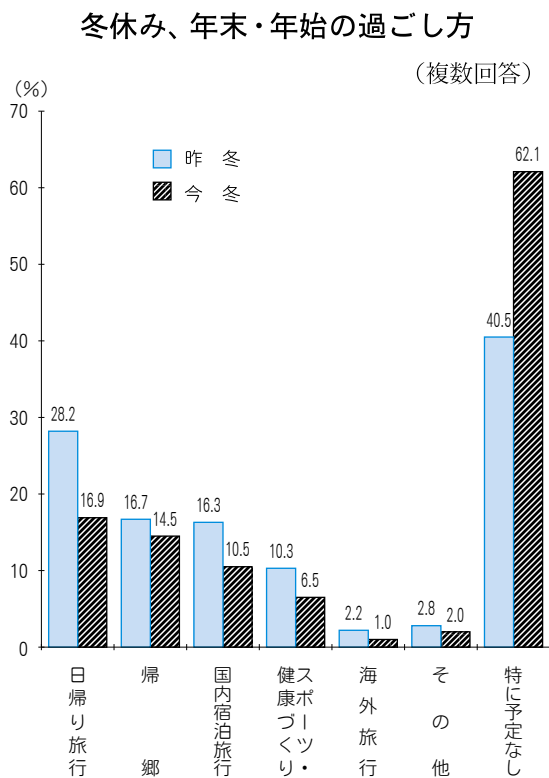
お歳暮に贈りたい商品ベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	お菓子	ビール (含ビール券)	ビール (含ビール券)	ビール (含ビール券)
2	調味料	調味料、食用油 (同順位)	直送生鮮品	お菓子
3	直送生鮮品		お菓子	ハム
4	ハム	ハム	調味料	直送生鮮品
5	カタログギフト、果物、缶詰 (同順位)	お茶・コーヒー、カタログギフト (同順位)	ハム	お茶・コーヒー

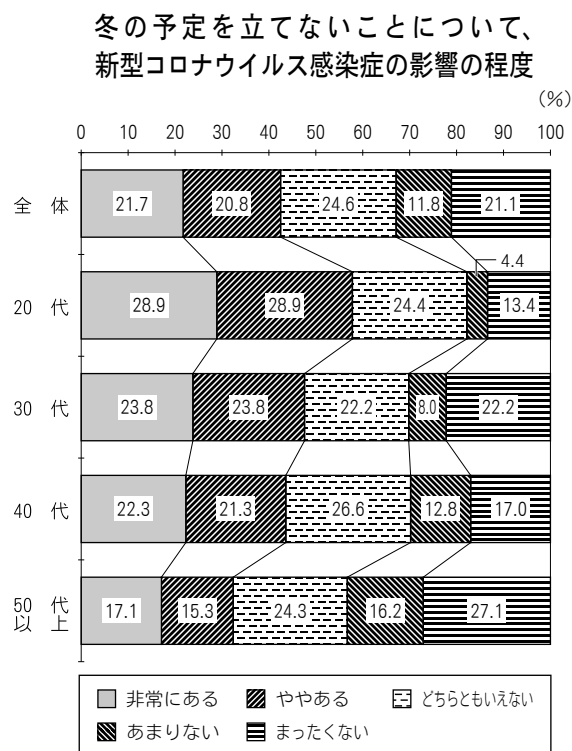
8 冬休み、年末・年始の過ごし方

根強い外出回避の意識

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、「特に予定なし」が62.1%と最多を占めた。以下、「日帰り旅行」、「帰郷」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順となった。



なお、「特に予定なし」と回答された方に対し、外出の予定を立てないことについて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の有無を伺ったところ、「非常にある」(21.7%)、「ややある」(20.8%)との合計が42.5%を占めている。また、参考までに昨冬の調査結果と比較すると、「特になし」が21.6ポイント上昇した以外は、すべての項目で比率が低下した。調査方法・調査対象が異なるため、単純な比較はできないものの、感染防止のために外出を回避する意識が依然根強い様子が窺われる。



冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）

	20 代	30 代	40 代	50 代以上	全 体
日 帰 り 旅 行	21.2	18.1	20.8	10.0	16.9
帰 郷	21.2	18.1	13.0	10.0	14.5
国 内 宿 泊 旅 行	10.6	8.6	12.3	10.0	10.5
スポーツ・健康づくり	5.9	5.7	7.1	6.9	6.5
海 外 旅 行	3.5	1.0	0.0	0.6	1.0
そ の 他	1.2	3.8	0.6	2.5	2.0
特 に 予 定 な し	52.9	60.0	61.0	69.4	62.1

(特別調査) 国の経済対策の利用状況 Go To事業は3割程度の利用

本調査では、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ経済の活性化に向けて、国が行った個人向けの代表的な支援策の利用状況について伺った。

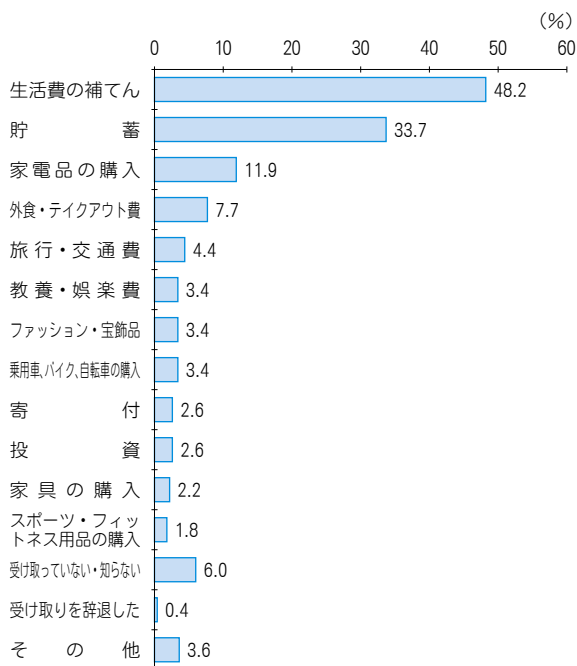
山梨県内では今年5月から給付が始まった「特別定額給付金」の使い道（複数回答）について、「生活費の補てん」が48.2%と最多を占め、以下、「貯蓄」、「家電品の購入」、「外食・テイクアウト費」の順となった。景気の悪化や先行きへの不安から、当座の生活費の補てんや今後の備えを厚くしようとする家計行動が窺われる。

飲食・レジャー関連産業の利用を促す「Go

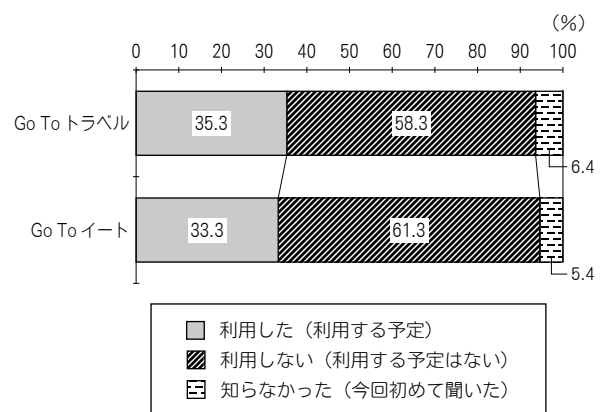
To トラベル」および「Go To イート」については、全体の3割強が利用意向（利用した、または利用する予定）を示した一方、6割前後は利用意向がない（利用しない、または利用する予定はない）との回答であった。事業者の間で感染防止対策が浸透するなか、宿泊施設・飲食店等の利用に前向きな層が一定数確認できる一方、依然不透明感が漂う感染状況を反映し、事態の推移を見守ろうとする向きが過半を占める状況が浮き彫りとなった。

なお、Go To トラベルの利用先の都道府県としては1位に静岡県、2位に山梨県・長野県（同順位）が挙げられており、比較的近場を目的地とした動きが広がっているものとみられる。

特別定額給付金の使い道について（複数回答）



Go To トラベル・Go To イート利用状況



キャッシュレスな毎日を。

お買い物やお金の管理がスムーズに。

YAMANASHI TARO

GOOD MONTH/年
THRU 月
有効期限 00/00

山梨中銀 Visa デビット

—マイデビット—

MyDebit



Let's cashless!

- 現金よりも便利、安心
- アプリで収支が見える
- お買い物のたびにスグに口座から引き落とし
- 国内・海外のVISA加盟店で使える
- お得なキャッシュバック特典付き
- 15 歳以上(中学生を除く)からご利用可能！審査不要！

※初年度年会費は無料です。次年度以降、年会費 1,100 円(税込)が必要となりますが、一定の条件により無料となります。(2020 年 7 月 1 日現在)

Web での
お申し込みは
こちらから



山梨中央銀行

VISA